

新規事業採択時評価に係る 港湾管理者の意見

港 一 495
令和2年1月23日

国土交通省港湾局長 高田 昌行 様

能代港港湾管理者 秋田県
代表者 秋田県知事 佐竹 敬久



港湾整備事業の新規事業採択時評価に係る意見照会について（回答）

当県の港湾事業の推進につきましては、日頃格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。
令和2年1月20日付け国港計第49号で照会のありました「能代港大森地区国際物流ターミナル整備事業」の予算化について、同意します。

能代港は秋田県北部米代川河口に位置し、古くから木材の荷役を中心とした河口港として発展し、昭和28年に地方港湾に指定され、昭和56年には能代火力発電所の立地が決定し、重要港湾に指定されています。

今日の能代港は、県北部の物流・産業活動を支える基盤として重要な役割を担っているほか、大規模な火力発電所が立地しエネルギー供給拠点としての役割も担っています。

近年、地球温暖化防止に向けた再生可能エネルギーの積極的導入が期待され、洋上風力発電事業が注目されるなか、能代港周辺は、風況や海底の地盤状況等から洋上風力発電事業の有望地域として期待されています。すでに能代港周辺では、港湾区域内を含め複数の洋上風力発電事業の計画が進められており、さらに導入が活発化すると考えられていることから、洋上風力発電事業の進展により、現在の火力発電所に加えてより一層エネルギー供給拠点として、地域経済を牽引する役割が期待されています。

能代港は、この複数の洋上風力発電事業計画に近接しているポテンシャルを活かして、海洋再生可能エネルギー発電設備の導入を促進するための拠点としての役割が求められています。そのため、周辺で計画されている洋上風力発電の設置及び維持管理を安定して行うためのふ頭再編及び機能強化を図る必要があります。

本事業は、能代港が海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾となり、再生可能エネルギーの導入拡大を支援し、秋田県内の産業振興及び雇用創出につなげるための重要なプロジェクトであり、予算化につきまして、特段の御配慮を賜りますようお願いいたします。